



2018年
2月6日
No. 152

## 2017 年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時 2018年4月29日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7  
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。  
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター, OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材(スライド, OHP, コンピュータ)を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8 コンフィデンス高垣 105  
有限会社エコシス 初芝伸吾  
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp  
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

●錦糸町駅南口から徒歩3分です。



## 東京蜘蛛談話会 2017 年度採集観察会

1. 期 日： 第4回 2018年2月18日（日）
2. 場 所： 行徳湿地
3. 集 合： 集合 10:00 千葉県行徳野鳥観察舎

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/gyoutoku.html>

東京メトロ東西線 行徳駅 徒歩 25分

東京メトロ東西線 南行徳駅 徒歩 25分

京成バス(新浦安駅行またはハイタウン塩浜行) 行徳高校下車徒歩 10分

JR 京葉線 新浦安駅 京成バス(本八幡駅行または江戸川スポーツランド行) 行徳高校下車

※自家用車利用可 (20台程度が利用できる無料駐車場があります)

※湿地入り口は施錠されていますので、集合時刻には遅れないようにお願いします。遅刻した場合には世話人加藤携帯電話までご連絡ください。

4. 世話人： 加藤輝代子

携帯電話：090-7012-6458



## 東京蜘蛛談話会 2018 年度採集観察会

1. 期 日： 第1回 2018年5月13日（日） 第2回 2018年7月8日（日）  
第3回 2018年10月14日（日） 第4回 2019年2月10日（日）

2. 場 所： 国立市のママ下湧水・多摩川河川敷

3. 集 合： 集合 10:00

南武線 矢川駅北口下のロータリー

4. 世話人： 初芝伸吾

携帯電話：090-6156-8378

甲野 涼

携帯電話：090-9370-4950

観察会の予定としては、午前ママ下湧水、昼食後移動して多摩川河川敷で行い、夕方温泉呑み会→反省会にしたいと思います。

# 東京蜘蛛談話会例会

2016年12月3日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

(1) 奄美産キレアミ  
グモ発見秘話

平松毅久



(2) リュウキュウミ  
ドリヒメグモの網について

平松毅久



(3) イエユウレイグ  
モの採餌行動と食性  
に関する小観察

鈴木佑弥



(4) ミヤコジマトタ  
テグモのオスが判明  
した

谷川明男・須黒達巳



通信原稿投稿先：谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : [dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp](mailto:dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp)

通信の原稿締め切りは、4月末まで、8月末、12月末です。

(5) クモの分布と分布拡大要因に関する仮説

新海 明



(6) ダニの多様性と系統学的位置

島野智之



(7) 日本産トタテグモ下目の背面内突起と胸内板の比較

長野宏紀



(8) ハエトリグモハンドブック制作秘話

須黒達巳



## 京都だより (7) 京都女子大への坂道にて

新海 明

2015年夏の終わりに京都で行われた日本蜘蛛学会大会は、中田さんが勤務する京都女子大学で開催された。京都は毎年のように訪れているのであるが、最近タクシーや地下鉄や私鉄ばかりを使い、バス路線はあまり利用していなかった。

京都国立博物館や三十三間堂の近傍に行くのだから、久々にバスに乗ってみようと思い駅前のバス停に並んだ。京都の夏の暑さは半端ない。この路線は東山を巡る観光のゴールデンルートである。長蛇の列の最後に並んだ。初めに来たバスには案の定、乗車はできなかった。次のバスにしようと1台目をやり過ごした。次のバスはすぐに来たのだったが、車窓を見ると中にはすでに乗客がいるではないか。「あれっ、始発では・・・」と思ったのだが、このバスは四条大宮から京都駅を経由するバスだと分かった。京都駅で下車する方もいたので、何とか座席に座ることができた。しかし、車内には後から後からお客が乗り込んできた。さすが日本の観光都市だ。

ふと、乗車してきた人たちの話し声が耳に飛び込んできた。英語フランス語中国語などなど。地元の方々の会話は皆無なので、さながら外国旅行をしているような錯覚に陥

った。車内はすし詰め。京都国立博物館・三十三間堂の前でほうほうの体でバスを降りた。ここから坂道を登ればすぐに京都女子大があるはず・・・と思って降りたのだが、早合点だった。博物館は広大なのだ。この塀に沿って歩いたが、ずっと先まで塀は続いていて、炎天下を道のどんつきまで進み左に曲がると、そこに京都女子大のバス停東山七条があった。もう一つ先まで乗車していたらよかったのだ。案内書をよく確認すべきだった。バス通りを渡れば女子大へと続く坂道が見えた。「ああ、ここに間違いない」

女子大への緩やかな坂道の左手は妙法院という門跡寺院があり、趣ある土塀が続いていた。その壁の上に点々と無数のシミがあるのに気付いた。生息場所の環境やシミの大きさなどから「えっ。チリグモか」と予想した。京都ならば「あり得るかも」と・・・。「大産地だなあ」などと思いながらクモを追い出したり、網の様子をじっくり調べることもなく、吹き出す汗を拭きながら大学の会場へと急いだ。

これが金曜日の昼過ぎであった。そして、それから二日間の大会の日程を終えた日曜日に、谷川さんと再び女子大の坂道を下った。金曜日の帰りは女子大のバスで、土曜日は懇親会後の暗い夜道を吉田さん宅に向かったので、昼間に谷川さんとこの坂道を歩くのは初めてだった。

入退会は：事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8  
コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 2000 円、学生 1000 円です。

**(会計状況の好転により、2015 年度分より当分の間、会費を値下げし、  
年会費を一般会員 2000 円、学生会員 1000 円とします。)**

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費のことは：会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

※談話会の会費は前納制となっております。本号に請求書と振込用紙を同封いたしましたので来年度分までの会費の納入をお願いいたします

土塀の白点が気になった。「谷川さん、これってチリグモかなあ」…と、谷川さんが目を凝らして見てくれた。帰ってきた返事は「ネコハグモのちび助じゃないかなあ（ちび助なので断定はできないけど・・・を、含んだ答え）」だった。「ああ、またやらかしてしまった！」しっかりと確認しないままの思い込みで判断したのだ。すでに目もあまり利かないのだから、ルーペなどでよく見ないといけないものを・・・。

私はここ十年以上、ただ一つだけ心がけていることがある。思い込みでしっかり確認できない同定結果は発表していない。ジョロウグモやトリノフンダマシの類は別ですよ、けれども、怪しいものは必ず谷川さんに確認してもらうことにしているのだ。同定能力に欠けるクモ愛好家としての嗜みである。「威張ることではありません。当たり前です」という叱責の声が聞こえそうですねえ。でもでも、そんなパッと見ての同定結果を発表してしまうことを皆さんもすることがありませんかあ。

## クモも猫も

加藤 康子

今朝、部屋の壁をじっとみつめて、身体を緊張させている我が家の猫ニボシに、そうと近付いてみると、ハエトリグモが壁を登っていた。猫の存在には気がついていないらしく、チョコチョコとあっちへこっちへ寄り道しながら朝の散歩というところだろうか、私の好きなヨダンハエトリではないか。

年に一、二回家の中に現れ、虫眼鏡をもって観察できるチャンスがあるととても美しいハエトリグモだ。愛嬌のある短めの足は素早く動き、中央の大きい目は黒かったり宝石のような魅力的な光を放つこともある。頭部の朱色は鮮やかに見る者を引きつけ、一度見たら忘れられなくなる可愛らしいクモだ。

しかし、今は危険な朝の散歩。慌てて手のひらで囲ってハエトリグモを庇った。するとニボは躍起になって前足の爪を出して引っ掻いてきた。獲物を横取りされてなるものかと大きく眼を見開いてとびかかってくる。額の M マークをつり上げ、怒りにヒゲもパッと広がっている。クモを庇う私とニボとのこぜり合いが続く中、ハエトリグモもや

つと状況を察したのか早足で壁を登り、扉の隙間に消えた。

あれは雄のヨダンハエトリだった。もっとゆっくり観察したかったなあ。 . . . .

たまたま老眼鏡をかけていたので少しは見えた。頭胸部の朱色の線はみごとで、大きな眼と過不足なく調和し 印象的な愛らしさをつくり出していた。

それにしてもニボは相当に口惜しかったのか。暫く壁の前に座ってキョロキョロと周囲を見廻したり、臭いを嗅いだりしていた。

家猫として室内だけで生活しているニボには冒険や狩猟に出かけるという楽しみは与えられない。一日中家のあちこちを歩いたとしても狭小住宅の我が家では運動量もしている。ニボが退屈そうに見えるときがある。いや本音は退屈などしていなくて、猫がごろごろと寝てばかりいるのは習性かもしれないが、ニボの狩猟本能を満たす足しになればと、まずは、家の中に入ってくる虫はムカデ以外は追い出さないようにしようと決めた。

ニボは目ざとく小さな虫を発見すると、身体を低くして ピクッと背中を波打たせて近づいてゆく。その前足はゴキブリもコオロギも逃さない。小さな虫の足音でも聞き漏らさない、なみはずれた能力があるのだろう。

だが、ある日気付くと、部屋の隅に網をかけていたユウレイグモが激減していた。これはちょっと予想外だった。細くて薄く静かなクモの存在までみつけてしまうとは。

クモも可愛いがニボの楽しみを邪魔はできない。何匹かのユウレイグモをこっそりと冷蔵庫の裏や 洗濯機の裏に移してやった。

好奇心に満ちたニボの空色の眼は 今日新しい何かを探している。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

Yahoo box ID kishidaia PW spider にアップロードして、その旨を谷川までご連絡いただいても結構です

キシダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。

